

# 遠雷

酒井恵三

遠雷はコントラヴァスの奏でる  
重低音のよう

この金沢の地に鳴り響く

真夜中の遠雷を聞くと

私は戦慄せんりつと共に

物哀しさをも覚える

そう、物心ついた時から

あれを聞いて来たのだ

冬の訪れを告げると共に

私の幼い心を重くして来た

あの音を――

北陸の冬の基調には

必ず重低音のような

遠雷の響きがある

眠っている時に聞えて来る

その音には

大人になってしまった

私の心にも

小さなおびえと

さざ波の如き

聴覚の変化を

感じさせずにはいられない

夜中のしんとした  
張りつめた空気は  
遠雷の音で  
尚引き立って来る  
私は戦慄する  
鼓膜と三半規管が  
小さな悲鳴を上げるのだ